

酒々井町郷土研究会々報

第73号

平成6年7月1日発行
酒々井町郷土研究会
編集部

佛像考(その二)菩薩

青木朝次

菩薩とは菩提薩埵の略で、菩薩(悟り)を求めるといふ意味があります。「上求菩薩下化衆生」といふみずから如来になるための修行のかわら、多くの入々(衆生)の教化・救済のために釈迦を始め多くの如来に倣って永遠に勸行精進を続ける佛様です。この菩薩が独立した佛として考えられるようになったのは大乗佛教が確立してからのことです。菩薩の大願は智慧を得させる、慈悲を与える、悟りへ導く等さまざまで、その願いに応じて種々の菩薩が出現しました。

その出現順序は弥勒・観音・文殊・普賢・虚空蔵・地藏菩薩となつて出現しました。前号で示しましたが菩薩の台座は全て蓮華座です。
△弥勒菩薩(一回) △弥勒とは慈悲の意味で、慈氏菩薩とも

いわれます。最初に出現した菩薩で、釈迦の没後五十六億七千万年後に如来になることを約束された未来佛です(他の菩薩は如来になる予定はありません)。釈迦の姿で施無畏印、無願印が普通です。如意輪観音と似た姿ですが瘦形で左脚を下げています。
△観音菩薩 正しくは観世音菩薩あるいは観自在菩薩といわれます。衆生が救いを求める声を聞くと、自在にこれを救う菩薩という意味です。現世利益の救済を施す佛様ですのぞその現れ方は多様です。



(図2) 聖観音菩薩像



(図1) 弥勒菩薩像



(図5) 馬頭観音菩薩像



(図4) 如意輪観音菩薩像



(図3) 十一面観音菩薩像

聖正観音菩薩(四二) 普通に観音という場合は聖(正)観音をさします。印相は来迎印です。
十一面観音菩薩(四三) 類の左右、頭部の化佛、頭頂佛と合わせて十一の面(顔)があります。持物は蓮華、花瓶などです。
如意輪観音菩薩(四四) 片膝を立てて頬杖をついている特異な姿をしています。四・六臂などの場合は蓮華・輪宝・如意宝珠など持っています。



(図7) 文殊菩薩像



(図6) 千手観音菩薩像

馬頭観音菩薩(四五) 頭部に馬頭を付け、左手は合掌印を結んでいます。多臂の場合は宝棒・花蓮華・斧・剣などを持つものもあります。火焰光背をつけているものもあり、不動明王と間違えないようにして下さい。
千手観音菩薩(四六) 数多くの手を持つので一見して直ぐ判ります。頭部顔面は十一面観音と同じですが、普通は中央の二手のほか四〇本の手を持っていて、その一本一本が二五の世界の衆生を救うので四〇×二五で千となり千手観音と呼ばれています。唐招提寺のは実際に千本の手を持っています。
△文殊菩薩(四七) 文殊もしくは曼殊で妙徳・妙吉祥の意味で智慧の菩薩です。普賢菩薩

と共に如來の脇侍として知られていますが、特徴は獅子に騎乗し、髻を結んでいます。

〔普賢菩薩〕(図8) 普賢とは普遍的の法門の意味で、佛の理性を示し、堅固な菩提心をさしています。文殊菩薩と並んで釈迦如來の脇侍となりますが、單體の時もあり、六牙の白象に乗り、五佛宝冠を付けています。女人往生を説くので女人の信仰をあげています。



(図8) 普賢菩薩像



(図9) 虚空藏菩薩像



(図10) 地藏菩薩像

〔虚空藏菩薩〕(図9) 虚空蔵とは、その廣大無辺の功德が虚空(大空)のように大きいという意味です。奈良時代から智慧の佛としても庶民に信仰されました。普通五佛宝冠を付け、右手には智慧の劍、左手には蓮華の上に乗った福徳の如意宝珠を持つてゐるのが一般的です。

〔地藏菩薩〕(図10) 天竺を象徴する虚空蔵菩薩に対し、大地を象徴するのが地藏菩薩です。頭を丸め、袈裟をまとう僧形で、左手に宝珠、右手には錫杖を持つ立像が多くみられます。

「山菜を食べる会」に参加して

社会教育課 大久保雅従

現在も周りを山林や水田に囲まれた片田舎に住んでいるが、我が家では山菜や野草といった類の食物を口にする機会はほとんどなく、もっぱらスーパーで売られている野菜ばかりが食卓にのぼるのが常である。今回「山菜を食べる会」にご招待をいただいたわけですが、「たらの芽」や「山うぶ」の天ぷら、「竹の子」や「ふき」の煮物、和えものなど、普段滅多に食しないものに舌鼓を打つことができた。

最近、トマトやキュウリといった野菜類はいつでも手に入り、季節感がなくなってきました。が、まさに「旬の味」を味わうことができませんでした。山菜は成人病予防にも良いと医学的にも証明されています。是非我が家で、もこのような機会をつくって、自然のありがたさ、すばらしさを認識したいと思っています。本当にありがとうございます。

史跡文化財愛護 草刈り記

総務部



四月二十二日、恵まれた天候の中で行われた町内四ヶ所の草刈りにはたくさんの方々の御協力有り難うございました。

開始時間を今少し早めてはとの御意見をいたございましたので、二回目の七月三日(日)は午前八時開始にいたします。

女性の方々には朝の家事のご都合もございませうが、頑張つて参加下さい。又、曜日につきましては日曜日に戻します。四月の時よりも暑さが増しますし、草も多くなります。多勢の方のお手伝いを係より心からお願い申し上げます。

会計報告

(5/18~5/19) 奥只見湖方面1泊旅行会計報告 参加者 43人

収入		支出	
会費	23,000 × 43 = 989,000	八街観光へ	949,758
滞志	25,000	保険料	3,542
	¥ 1,014,000	トヨタへお礼	12,400
		退金(43分)	30,100
		追加料(飲食物)	18,937
			¥ 1,014,937

¥ 737 郷土研より補足

(4/28) 山菜会計報告 参加者 60人

収入		支出	
会費	700 × 60 = 42,000	材料代	¥ 51,946
雑収入	10,200		
	¥ 52,200		

差引残高 254円(郷土研へ)

郷土史講座案内

「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」と題し、高橋健一氏が講演されます。(八月二十一日 十時開演)

「醍醐雜事記」「香取遊學料足続帳」「家忠日記」「甲寅紀行」「佐倉風土記」「古今佐倉真在子」浄泉寺文書、金石文銘など直接的な歴史史料をテキストとして、これらを改めて読み直すことにより、酒々井の歴史を見つめ直すと共に、当日参加される皆さんと酒々井の歴史を考えてみようという趣旨で、楽しく学べる講演会です。講師と共に学びながら聴ける講演会に氣樂に、参加下さい。

年会費納入についてのお願い

今年度も早6ヶ月を経過してまいりました。只今会計では会費納入につき整理しております。納入をお忘れの方は誠にお手数ながら会長が最寄りの役員にご連絡いただきますようお願い申し上げます。

大湯温泉 一泊旅行 奥只見湖

滝川京子

郷土研の一泊旅行は例年心待ちする旅の一つです。今年もどんなに仏さまにお逢いでできるかという期待に胸を膨らませて総勢四十三人は七時四十分出発、緑が匂うような閑越道をバスは走りま

す。八街観光の名ガイドさんのサービスは限りなく、三時間余りでもう越後です。「魚野の里」で昼食。ご飯は純米さきにしきで山菜や焼酎の煮物がおいしい。この冬は雪が多かったといわれながらも只見湖は水濁れで湖上遊覧は不可能とのこと。バスは大小十七もあるトンネル道を再び戻って、今夜の宿大湯温泉「東栄館」へ五時前に到着。早速、温泉の湯で旅の疲れを流して夕食。その後は郷土研演芸一座のご開帳で楽しく賑やかな夜は更けていきました。

二日目の第一歩は越後の古寺といわれる古刹園福寺です。阿弥陀如来・昆沙門天・地藏菩薩など越後随一の重文の仏像を拝することができました。次は大浦開山堂、越後の東照宮ともいわれる西福寺に詣りました。石

川雲蝶一生の大作「道元禅師入家伝記」の天井彫刻の一つ一つに、懐中電灯の光を当てながら、丁寧に説明された老人の顔が、彫刻の童子の顔にオーバードラップして見えたのはお堂の薄明りの故だったのでしょうか。

次は楽しみにしていた酒蔵見学。人間の知恵、って本当に素晴らしい。天然の雪中貯蔵で醸造された二年もの辛口酒、ゆきく



かこんでー休みー休みのようにくんでつぎにがっつきます。よもやまばなしがどうぞあなたもお仲間

らの試飲では、雪室で冷えた冷酒のおいしさをしみじみと味わいました。お土産は「ゆきくら」には手が出ず、拍漬「雪国漬」で我慢、我慢。最後の「ぐんまフラワーパーク」ではイベントホルの山野草展が人々を集めていました。楽しい時間は駆足です。帰路は相模の夏場に酒々井着。皆さま来年もまた元気でお逢いしましょう。

町内史跡めぐりに参加して

上野和子

さわやかな風が吹き、新緑が目にしみるような気持ちよいハイキング日和の朝、エリート情報を見て参加したという成田、佐倉の人々も含め五十八人の歴史好きの方々と京成酒々井駅を出发しました。今回の史跡めぐりは大鷲神社、新光寺、大仏頂寺、八社神社、光全和尚墓、七社神社、双体道祖神、ミクリの自生地、岩橋城址、下岩橋の弁天山を巡るコースで約十キロの行程でした。散策途中は家々の手入れの行き届いた庭に花々が咲きほころび心がなごむようでした。

大仏頂寺の境内では八重の鉄線などめずらしい花々が自慢げに咲き揃っていました。大仏頂寺には奈良時代に中国から渡来したという「舌出しの鈴」という古銭があります。毎年二月二十一日の御影供に公開されるそうです。本堂にある大同二年（八〇二年）に弘法大師が納めたという本尊の大日如来の荘厳さに感激しました。さすが佐倉五か寺の一つで往時の下岩橋界隈の賑わいが目に浮かぶようでした。

日	内 容	参加人数
4/1	史跡めぐり(大鷲神社、新光寺)	15
4/2	史跡めぐり(大鷲神社、新光寺)	39
4/3	史跡めぐり(大鷲神社、新光寺)	40
4/4	史跡めぐり(大鷲神社、新光寺)	62
4/5	史跡めぐり(大鷲神社、新光寺)	11
4/6	史跡めぐり(大鷲神社、新光寺)	22
4/7	史跡めぐり(大鷲神社、新光寺)	43
4/8	史跡めぐり(大鷲神社、新光寺)	58
4/9	史跡めぐり(大鷲神社、新光寺)	66
4/10	史跡めぐり(大鷲神社、新光寺)	7
4/11	史跡めぐり(大鷲神社、新光寺)	25

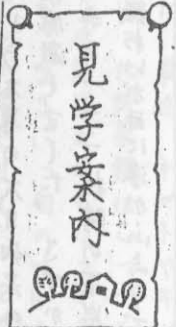


空堀を過ぎて、乾いた落ち葉の上をすべりながらやると登りついた急な山の頂上に岩橋城址がありました。周囲の所々に往時の面影が偲ばれる土塁の跡が残っていました。会田会長、青木副会長、加川さんの説明がありました。加川さんの「岩橋城は本佐倉城の出城といわれているが、一説によると岩橋城に居るが、一説によると本佐倉城に移り岩橋城を出城とした」という話は興味深く思いました。また千葉氏の流れについても細かな説明があり、二、三人の方から質問も出されました。最後にになりましたが散策コースの清掃、下岩橋青年館でのお茶、お漬物の接待など地区の方々の温かいお心遣いにとてもうれしく思いました。ありがとうございました。

郷土研行事業内

平成6年7月~9月

	7月	8月	9月
史談会	9日(土) 午後1時30分 「酒々井町の石仏と文化財」 中央公民館 サール室 新堀・上本地区	休ミ	10日(土) 午後1時30分 「酒々井町の石仏と文化財」 中央公民館 サール室
名勝探訪 野草の会	5日(火) 雨天代替 8日(金) (雨天中止) 京成酒々井駅 8:25 集合 名勝探訪 池上本門寺方面 京成酒々井 → 西馬込 → 池上本門寺 → 本門寺境内めぐり → 西馬込 → 京成酒々井	休ミ	16日(金) 雨天代替 28日(水) (雨天中止) 京成酒々井駅 8:15 集合 名勝探訪 中野新井薬師方面 京成酒々井 → 高田馬場 → 新井薬師前 → 新 井薬師 → 北野天神 → 新井薬師駅前(昼食) → 哲学堂 → 江古田古戦場跡 留バス → 中野駅下車 → 犬屋敷跡 → 中野駅 → 京成酒々井駅 (都合で行程は変更もあります)
史跡文化財 愛護活動	7月3日(日) 雨天代替 7月10日(日) 午前8時作業開始 (雨天は中止します) 活動作業場所 (1) 上岩橋貝層 (3) 伊篠松並木 (2) カンカンム口横穴群 (4) 古松碑 (問い合わせ先 会田秀雄(会長)宅 TEL		
郷土史講座 (教育委員会共催)	8月21日(日) 午前10時開演 場所 酒々井町公民館 視聴覚室 演題 「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」 講師 佐倉市市史編さん担当 高橋健一氏 ご来聴をお待ちしております。		



名勝探訪 7/5 7/8 9/16 (金)

◎池上本門寺方面 7/5 7/8 7/16 (金)

日蓮宗の巨刹で、日蓮聖人入滅の地として名高い池上本門寺を訪ねます。

池上本門寺は日蓮宗の本山であり、日蓮聖人入滅の地。その昔この地に住んでいた鎌倉幕府の池上宗仲が日蓮に帰依し、自分の土地屋敷をそっくり寄進したもので広い境内には五重塔、終蔵を始め、国、都、区指定の文化財が数多く保護されている。

五重の塔は慶長十三年の建立と言われている。古色蒼然とした塔高き二九メートル初層は和様、二層以上は唐様で造られている。鐘楼は戦災を受け焼失したが、昭和五年十二月見玉蒼士夫氏が本山復興を祈願し再建された鉄筋造りのもの。梵鐘は重さは約七、五トンもある日本屈指のものであり、戦後新しく造られた。

奉安塔は戦後建造された鉄筋造りの空塔で日蓮聖人の真骨、真筆等が奉安されている。

経蔵は一切経五千余巻が回転自在の六角輪蔵に収められている。多宝塔は聖人入滅の時、遺体を火葬にした所に建てられた空塔。

大坊は日蓮に心服していた池上宗仲の邸宅あとで日蓮聖人入滅の地といわれている。総門は元禄年間、建造といわれ、総門の書

◎新井薬師方面 9/16 (金) 雨天代替 9/28 (水)

残暑厳しい折電車の乗り換えも大変だと思えますが一寸遠出した

新井薬師駅を下車し中野通りを少し歩いた所に新井薬師があり、本尊は薬師如来像で治眼薬師、子育て薬師とよばれ親しまれています。さまた中野通りに戻って松並木の道をしばらく歩くと哲学堂公園の森が見えてきます。小高い丘にあるこの公園は、明治三十九年哲学教育者の井上円了が精神修養の道場として開いたもので釈迦・孔子・ソクラテス・カントを祀った四聖堂をはじめ、宇宙館、絶対域等ユニークな名称の建物があり、散策には格好の場所です。一日のんびり哲学について考えてみましょう。



あどがき

降りつづく雨、カサをさして長くつはいてあにりをちよつと一まわり。紫陽花色の街はくちなしの香りが漂い、葉かげがわりのそく梅の実は丸くはじり、真珠色したかたつむりの赤ちゃん針のような角をふり上げて勇ましいこと。

足をのばせば緑色に煙むる若稲の広がり、今年豊作を約束してくれています。ほんの一まわりが懐かしい発見の旅になりました。

雨が上つたら夏まつ盛り。暑さに負けずに貴方も貴女も楽しいもの見つけの郷土研でお会いしましょう。